

SSKP

船橋障害者自立生活センターニュース

2000年9月10日発行 第35号



編集：船橋障害者自立生活センター事務局

〒273-0011 船橋市湊町1-6-12

郵便振替「00140-9-609088」

TEL：047-432-4554 FAX：047-432-4565

URL：http://www02.u-page.so-net.ne.jp/wb3/wave-fil/

E-Mail：wave-fil@wb3.so-net.ne.jp

安積遊歩講演会のお知らせ

私たちのセンターでは、障害者生活支援事業の一環として毎年、春と秋にシンポジウムと講演会を行っています。今回はピアカウンセリングへの理解を広める企画として、以下の講演を行います。

日時：9月30日（土） 13：30～16：00

会場：船橋市女性センター研修室

講師：安積 遊歩（あさか ゆうほ）

テーマ：障害者とピアカウンセリング

参加費：無料



今回の講演は安積遊歩さんのこれまでの歩みを交えた内容になることが予想されます。どなたにもいろいろなことに気づき、力を得て帰ることが期待されます。みなさま、ぜひ、ふるってご参加ください。

安積遊歩さんの紹介

福島県出身。生れつき骨形成不全症の障害者。20代から障害者運動に関わり、1983年にアメリカの自立生活センターに半年研修、日本に「ピアカウンセリング」や「再評価カウンセリング」を伝えている。現在は国立援助為センターの代表。『車イスからの宣戦布告』『ねえ、自分を好きになろうよ』などの著作がある。

ピアカウンセリングとは…

簡単に言うとピア（仲間）同士のカウンセリング。ここでのピアは障害者を意味し、障害者が（その当事者が）お互いにつながり、力を取り戻していくことを目的とする、カウンセリングの方法。

問い合わせ先

船橋障害者自立生活センター相談室

TEL：047-495-6777/FAX：047-495-6776

バリアフリー写真展 **開催**

私たちのセンターでは、昨年、市内の主な公共施設や交通機関などを障害者自身の目で調査し、その結果をインターネットのホームページと「船橋バリアフリーガイド」という小冊子にまとめ、発表しました。

今回、その時に撮影した写真の中から主なものをピックアップして展示する写真展を下記の要領で開催することになりました。

私たちにとって使いやすい設備や使いにくい設備とはどういうものなのか、具体的に見ていただくことによって、本当のバリアフリーとは何なのか、ぜひいっしょに考えていただきたいと思います。おおぜいの方のご来場をお待ちしております。



日程：10月10日(火)～27日(金)

場所：船橋市役所一階ロビー



ピアカウンセリング短期集中講座のお知らせ

暑さもやわらぎ、徐々に涼しくなっている今日この頃ですが、いかがお過ごしですか。私たち、船橋障害者自立生活センターでは今年もピアカウンセリング短期集中講座を開催します。ピアカウンセリングとは、お互いに話しを聞き合う事で、自分自身で何かに気づき、力を取り戻し、お互いにつながっていく・・・そんなプログラムです。これだけでは何のことかまるでわからないと思います。しかし、これを見て、「ん?! ななな、なにこれ～」と思ったあなた、チャンスです。この講座に参加しましょう。すばらしい世界が広がること間違いなしです。

とにかくピアカウンセリングは障害をもっている人なら誰でもOKです。みなさんの参加を心からお待ちしています。

日程： 10月13日（金）午後1:00～午後9:00

10月14日（土）午前9:00～午後9:00

10月15日（日）午前9:00～午後0:00

<計2泊3日の予定>

リーダー： 殿村 久子

会場： 船橋中央公民館

宿泊先： 船橋第一ホテル(日程通りに参加できる人は通いでもかまいません)

参加資格： 障害をもっている人で自立生活をしている人
または自立生活に興味を持っている人

定員： 12名(定員になり次第締めきります)

参加費用： 受講料は障害者生活支援事業の一環として行うので無料です。
ただし宿泊費、食費は自己負担となります。

介助者： 原則的には自分でつれてきてください。
どうしても見つからない場合は、相談に応じます。

ピアカウンセリング長期集中講座のお知らせ

私たち、センターでは今年もピアカウンセリング長期講座を行います。

先ほど書きました、短期集中講座とは違い、ピアカウンセリングのもっと奥の深いところを40時間かけてみんなを感じるプログラムです。本当にピアカウンセリングを理解したい人、ピアカウンセリングをいろいろな人に広めたい人、もっとピアカウンセリングを自分のものにしたい人、どなたでもかまいません、気楽に参加して下さい。私たちといっしょにすばらしい世界を体験しましょう。

日程：

2000年11月9日、16日、30日

12月7日、14日、21日

2001年1月11日、18日、25日

2月1日、8日、15日、22日

3月1日

<計14回・時間はすべて午後1:30～4:30>

会場：船橋市女性センター

参加資格：障害をもっている人で自立生活をしている人
または自立生活に興味を持っている人

定員：7名

参加費用：受講料は障害者生活支援事業の一環として行うので無料です。

介助者：原則的には自分で探してください。
もし無理な場合はセンターに相談してください。

自立生活プログラムの報告

石栗 利之

今年度の自立生活プログラムは参加者が8人（1人は途中で辞退）、リーダーとサブリーダーを含めると合計10人でプログラムが行われた。プログラムの内容は以下の通りである。

回	月日	時間	内容
1	5月10日(水)	13:30～16:30	自己紹介
2	5月17日(水)	13:30～16:30	自立をすることって…？ 自立をした人たちの話を聞こう
3	5月24日(水)	13:30～16:30	前回の話を聞いての感想・フィールドトリップの打ち合わせ
4	6月3日(土)	14:00～19:30	フィールドトリップその1（ららぽーとにて）
5	6月7日(水)	13:30～16:30	人との関係について
6	6月14日(水)	13:30～16:30	自立したらお金はどうなるその1：年金について
7	6月21日(水)	13:30～16:30	自立したらお金はどうなるその2：生活保護について
8	6月28日(水)	13:30～16:30	7月20日のフィールドトリップの準備
9	7月5日(水)	13:30～16:30	自立したらお金はどうなるその3：他人介護料について
10	7月12日(水)	12:00～16:30	料理を作ってみよう（東部保健センターにて）
11	7月20日(木)	11:00～16:30	フィールドトリップその2
12	7月26日(水)	13:30～16:30	終了パーティー

- ・ プログラムのリーダーは、5月17日が見形信子、渡辺由美子、6月7日、14日が今井志郎、6月21日が堤愛子、6月28日が見形信子、山崎真弓、石栗利之、7月5日が村山美和、それ以外は石栗利之。
- ・ なお、会場は4、10、11回以外女性センターで行われた

このプログラムで、一番の問題となっていたのは介助者のことであった。みんな、介助をかなり必要としていて、みんなにとって共通の問題となった。はじめから、活発な意見がでていた。

また、制度の勉強では年金をどのように管理するかとか、親やボランティア、介助者の違いをロールプレイで実践したりとか工夫が見られた。

このプログラムを振り返ると、みんな本当に一生懸命楽しんで、限界なく楽しんで良いということは伝わったと思う。今回のプログラムで若い障害者にはそれぞれすごいエネルギーがあることが感じられた。これからの課題は、若い障害者をいかに発掘し、それをサポートしていくことだと思う。これらのプログラムによって限界なく行動して良いこと、そのままで素晴らしい人間であることを伝えていきたい。

「自立生活プログラムに参加して」

川嶋 徳人

僕は今まで「自立」ということを真剣に考えたことがなかった。もう27歳だし、この辺で一度考える機会が必要だと思い、「船橋自立生活センター」が毎年開催している『自立生活プログラム』に参加しようと所長に相談してみたところ、「良い経験だから行ってみたほうがよい」と言われ、受けることにした。今回は「自立生活センター」からリーダーとサブリーダーの2名、受講生は10名で始まった。



カラオケだよ～
Fire～ Fire～

始めは自己紹介。部屋にはリーダーと受講生以外シャットアウト。リーダーがキッチンタイマーを取り出して3分以内に「どこから来たのか」「ニックネーム」「プログラムに期待すること」を答えてみようと言う。ニックネームは、自分自身に付けたことがないので、とりあえず名前で「のりひと」と呼んでもらうことにした。プログラムに期待することは、「受けることによって少しでも自分が変われば」と答えた。実際に自立している人の体験談では、自立することは本当に難しいことだけれど、決して不可能ではないことを思い始めさせてくれた。自立したらお金はどうなるシリーズでは、年金の管理を親にまかせておけば一番安心であるけれど、自分はこれだけもらっているのだと自覚する意味でも管理することは必要だと感じたり、僕たち障害者自身がいろいろな制度を知るのはすごく大事で、そうでないと周囲の人に言われるままに、違うとかおかしいと思っても何の反論もできないし、必要なことはこちらから訴えていかなければ、周りのほうからは何もしてはくれないことを学んだ。「フィールドトリップ」（介助者と一緒に出かける）では、その1のとき、自分自身大変緊張してしまい、何をどのようにお願いすればいいのか戸惑い、積極的に頼めず上手にコミュニケーションが取れなかったけれど、その2のとき、ベテランの介助者さんについてもらったお陰で、コミュニケーションもばっちりとしたし、僕にとって充実した大きな経験の一日となった。介助者さんと食事を作るという初めての体験では、チャーハンを作るリーダーというとんでもない大役に選ばれたが、みんなに助けられて無事に努まってよかった。

このプログラムを受けて、僕たち障害者自身が自分たちの周りを取り巻いているさまざまな制度を知ることが大事なことを強く感じた。また未熟な僕ではすぐに自立生活は無理かもしれないが、将来的にはできるのではないかと思うようになった。

川嶋君が通所している福祉作業所「太陽」のホームページアドレス
<http://www.city.funabashi.chiba.jp/taiyo/taiyo01.htm>

「自立生活プログラム」に参加した感想と これからの生活について



匿名

「自立生活プログラム」にはじめて参加したのですが、今まであまり経験したことのない体験ができて本当に良かったと思います。その一つに「フィールドトリップ」があります。

受講者とスタッフの皆さんで計画を立てて、外出するという企画だったのですが、今までに車での移動しかしたことがなく、介助者に他人を入れて外出したこともなかった私なので、この企画にははじめちょっと不安がありました。

二度あるうち一度目は、WAVEのスタッフの皆さんに助けていただき、安心して参加することができましたが、二度目は、自分で介助者を探し交通手段も考えなくてはならなかったので決まるまでは本当に不安でした。それでも、いろいろな方にアドバイスをいただき、なんとか出発の準備を整え外出する日を迎えました。

目的地へ着くまでの交通手段には電車を使うことになりましたが、私の利用した最寄りの駅は最近できたばかりのため、バリアフリー化がされており、スロープはもちろん車椅子が乗降できるエスカレーターもちゃんと設置してあって大変移動に便利でした。しかし、電車を乗り換えるため降りた駅ではまだそのような設備が整ってなく、駅員さん約4人に車椅子をかかえてもらいながら長くて急な斜面の階段を乗降することになりました。乗降している間中、間違っただけで車椅子から振り落とされたりしないようにと私も必死でしたが、乗降し終わると汗だくになり疲れた表情をした駅員さんがそばにいることに気がつき、この真夏の暑い中に申し訳ないなという気持ちと、この駅も早くバリアフリー化されエレベーターやエスカレーターが設置されればいいのになと思ったりしました。

現在世間ではよくバリアフリーのことについていわれていますが、実際に自分自身が電車に乗ることで交通機関のバリアフリーについての現状を体験できたことは本当に良かったと思います。そしてこんな感じでしたが、無事目的地までたどり着き楽しく過ごすことができました。

また、「自立生活プログラム」では、福祉制度のことについて教えていただいたり、実際に一人暮らしをされている方のお話を聞けたりと、参考になることが多かったです。これからは私もいろいろな形で積極的に社会参加ができればいいなと思います。

最後になりましたが、「自立生活プログラム」でお世話になったスタッフの皆さん、外出の際、介助をしてくれたヘルパーの皆さん、本当にありがとうございました。

電動車いす 街を行く

高野博之

私が初めて自立生活センターを訪れたのは3月15日の事だった。実は数年前から家に来るヘルパーさんにセンターの話を聞いたり職員の名刺まで貰って来てもらったのになかなか出かける気にならなかった。

そんな気持ちをかえたのは数日前から続いていた歯痛だったのだ。歯医者に行ってくれる付き添いを頼もう

と思ってセンターに出かけたのに、とんでもない方向に

進んでしまったのである。というのは前に貰った名刺に杉井和男と書かれてあった。どこかで聞いた覚えのある名前だ。いろいろ考えているうちに今から40年前にいつしよに入院していた友達と同じであることを思い出したのである。まさかそんな事考え過ぎだと思いつづけていたが、それが当たっていたとは…



車がセンターにつくと応対に2人出てきたが片方の電動車いすに乗った方の顔を見ると40年前に一緒だった杉井さんの姿があった。「杉井さん、俺だよ俺、高野だよ」と言っても杉井さんはハトが豆鉄砲を食らった顔をして言った。「どこで一緒でしたっけ…」 そのあと時間がかかった事は言うまでもない。



その後、私の高級軽自動車を市役所の駐車場に置き事務所に入った。「歯が痛いので付き添いのヘルパーさんを頼みたいのですが」と言ったら「派遣まで4日はかかります」との冷たい返事。冗談じゃない、痛くて2晩満足に寝ていないのにと思ったがあきらめた。

だが、ピンチの後にはチャンスあり、以前から欲しかった電動車いすの申請をしてもらい、何がなんだか分からない3月15日は終わりました。

その後センターの皆様のおかげで7月10日に電動が届き、習うより慣れろをモットーに運転の練習に励んでいる毎日でございます。生活もかわりました、スーパーやデパートで買い物をしたり食堂で食事をしたりして。

特別連載

私らしい生活の実現を目指して（11）－最終回

渡辺 由美子

21世紀の福祉行政に望む事

各市町村の窓口で働くケースワーカーのみなさん、長々と、まとまらない話を聞いて下さってありがとうございました。

だいぶ疲れて眠くなった方もいらっしゃると思います。

でも、ここからはぜひ目を見開いてもうしばらく私の話に耳を傾けて下されば幸いに思います。これからの福祉施策について私なりの要望を申し上げてみたいのです。

今、老人も含めて障害者も施設福祉ではなく、地域や在宅で暮らせる地域福祉が主流となろうとしています。

福祉の体制も地方分権と言われ、市町村の果たす役割が大きなウェイトを占めてくる時代となりました。

しかし、この際ですから言わせて頂きますが、千葉県は全くと言ってよいほど、重度障害者を地域の中で支えていく体制が整っていません。

市町村の窓口で相談に行けば、地域での自立を薦めることも多くなってきました。

切実に、自立思考を持って「施設から出たい」と言っている障害者も多数います。ただやみ雲に在宅や自立を薦めるのではなく、行政としても裏付け的施策を早急に講じて頂きたいと思います。

行財政改革不況など社会の情勢も厳しく、役所ではすぐに「わかってはいても財政がない」と言われてしまいます。

しかし、その人らしい人生を維持していくことへの公的保証としての施策が「お金がない」ですまされては、私たちとしてはた

まらない感じがするのです。その言葉を聞く度に当事者として、いつも、強い怒りを覚えています。

以下、具体的に21世紀の福祉施策に望む事を箇条書き的に述べてみたいと思います。

どれか1つでも地元市町村に持ち帰って、実現の道を探って頂ければ今日ここでお話した甲斐があるというものです。

1. ホームヘルパーの24時間派遣の実施。
2. 東京都などでやっている脳性麻痺者等全身性障害者他人介助料に準じた制度を千葉県でも1日も早く創設して下さい。
3. 在宅者の公的入浴サービスの回数をせめて週1回にし、昼間ではなく夕方から夜間に普通に入浴出来るよう制度の充実を図って下さい。
4. 社会参加の第1歩としての移動の問題を解決する為、全市町村で車椅子ガイドヘルパー制度を確立するなど、社会参加の為の諸制度を整え、いつでも使える公的リフトカーの運行をもっとこまめに早朝、夜間を含め、行ってください。
5. 健康の維持や学校卒業後の脳性麻痺の2次障害による緊張の高まり、激痛などをきちんと対応してくれるリハビリ施設の確保と、リハビリ技術者の養成、教育をして下さい。

とにかく自立を希望した者がどんな重度障害があっても地域の中で、当たり前

生活できる公的介護保障をして下さい。

現在は、前述した当然あるべきと思われる諸制度が千葉県の場合、全くとってよいほど存在しないので、1日も早く制度を作っていたきたいと切望致しますが、それをただ待っていたのでは、私の人生には間に合わないかとも思い、介助に来て頂いている方には大変申し訳ないのですが、自分が今必要と思う介助体制を施設の中で作りあげて行くことも考えているのが実態です。

あくまでも、ボランティアの活用は人の都合で左右されるので、たくさん人を集めても常に不安定です。

このような状況では、本当の自立はいつまでたっても確保できません。

数多くの重度障害者が、地域の中で当たり前暮らしたいと思いながらも、それを支える体制がない為にやむなく療護施設で一生終えてしまいます。これは大変悲しい事だと思います。

気の弱い性格でも、自分で人的ネットワークを作ることが出来ない人でも、望めば地域のなかで生きられる。そんな福祉施策をお願いしたいと思います。

ボランティアに頼っての現在の私の生活は、あくまでも私がどこまで両親の力を借りなくても他人との関係のなかで、生きていけるかを試しているに過ぎません。

絶対に介助が必要な部分については、最終的には公的介護保証で、安定的に支えられていきたいものだと思います。

しかしながら今の状況では、あと、どのくらいこのボランティア精神に頼った暮らしを続けなくてはならないか、まったくめどの立たない日常です。

そのような現実の中で、在宅福祉、地域福祉を言うのは矛盾ではないでしょうか。

私は、施設福祉の中で生活して行くことを望まず、地域福祉の中で生きて行くことを強く望んでいるからこそ、そのことを強調せざるを得ません。

私が、10年後に障害者相談センターに、親が年にとって生活出来なくなったので、施設に入所したいと言う相談をしなくても済むような21世紀であってほしいと思います。

もちろん、そんな事ばかりを言いたくはないので、自分なりに精一杯の努力はしていくつもりですが、社会の方でもその私たちの思いを汲み上げ、協力して下さる体制がなければ、疲れ果て、もたなくなってしまうのが、今の私たちの自立生活の実態だと思います。

様々に無理難題の要望ばかり、最後に列挙しました。

私自身の明るい未来と障害者福祉全体の21世紀を作る為に、日々大変な事も多いと思いますが、最終的には行政のケースワーカーさんが唯一の真の支えなのです。

その意味で、きめ細かくそれぞれのケースに対応していただければ本当に嬉しく思います。

私が、人生を終わる時にこんな身体でも生まれてきて、生きていてよかったと思える私らしい生活の実現の為に、これからも精一杯頑張るつもりです。

行政の方々と協力しあって、よりよい社会を作っていけたらと思います。

時には障害者はうるさい事ばかり言う嫌な奴かも知れませんが、みんな精一杯生きようとしています。ぜひ、その思いをサポートして下さい。重ねてお願い致します。

長時間に渡り、私のつたない話を最後まで聞いて頂きましてありがとうございました。

本当にご静聴ありがとうございました。

急募！！！！ 介助者

千葉市中央区白旗に一人暮らしをしている女性（40代）の障害者が、泊まってくれる介助者を必要としています。彼女は脳性マヒで、言語障害がありますが、自力歩行が可能なので抱き上げなどの特に力が必要な介助はありません。

最近センターに、その女性から「9月から週に3回、宿泊の介助者をお願いしたい」との依頼がありました。千葉市にはまだ、障害者の自立生活センターが無いために私たちのセンターに依頼が来たのです。介助者が見つからなければ、自立生活ができないため、施設に入るしか他にないそうです。

無償ボランティアではなく、有料介助です（1晩2,000円＋往復の交通費）。

同性の介助者を希望しています。ホームヘルパー等の資格は必要ありません。千葉市近辺に在住の方で、どなたか彼女の生活の一部を支えてくださる方、センターまでご連絡ください。

時間：夜8時から翌朝8時（もちろん十分な睡眠時間はあります。）

主な介助の内容：

- ・ 近所のスーパー（夜10時まで）で買い物をしてほしい。
- ・ 簡単な夕食を作ってほしい。
- ・ 食後の後片付けもお願いしたい。
- ・ 洗濯をしてもらいたい。



最寄の駅：JR蘇我駅（自宅は駅から徒歩15分）

空いている時間があれば、週に1度、2週に1度でもかまいません。どうかよろしくお願い致します。

お問合せ：船橋障害者自立生活センター
介助派遣担当：落合・塩野

事務局の動き

4月

4/3 障害連役員会
 4/4 パソコン教室
 4/4 移送サービス・シンポジウム
 4/5 浦安訪問
 4/10 朝日新聞取材
 4/11 パソコン教室
 4/11 機関紙発送
 4/12 第一更正園訪問
 4/13 喜樂の家訪問
 4/14 連絡調整会議
 4/14 小菅君を偲ぶ会
 4/14 船橋よみうり取材
 4/18 パソコン教室
 4/19 事務局会議
 4/20 バリアフリーガイド市長贈呈式
 4/21 会計監査
 4/25 パソコン教室
 4/28 連絡調整会議

5月

5/2 パソコン教室
 5/9 パソコン教室
 5/10 自立生活プログラム
 5/12 連絡調整会議
 5/14 運営委員会
 5/16 パソコン教室
 5/17 自立生活プログラム
 5/19 事務局会議
 5/20 JIL 権利擁護シンポジウム
 5/20 名簿整理
 5/21 JIL総会
 5/23 パソコン教室
 5/24 自立生活プログラム
 5/26 連絡調整会議
 5/28 定期総会
 5/29 市と非公式協議
 5/30 パソコン教室

6月

6/1 千葉工大で打ち合わせ
 6/2 事務局会議
 6/3 自立生活プログラム
 6/6 パソコン教室
 6/7 自立生活プログラム
 6/9 連絡調整会議
 6/12 市川リハ病院見学
 6/13 生活支援事業職員研修
 6/14 自立生活プログラム
 6/14 生活支援事業職員研修
 6/20 パソコン教室
 6/21 自立生活プログラム
 6/23 連絡調整会議
 6/24 千葉工大
 6/26 対市定期協議

6/27 パソコン教室
 6/28 自立生活プログラム
 6/30 事務局会議
 7月
 7/1 ケアマネージメントシンポジウム
 7/2 浦安ドリームセンター
 7/4 パソコン教室
 7/4 峰台小学校福祉授業
 7/5 自立生活プログラム
 7/6 生活支援事業職員研修
 7/7 生活支援事業職員研修
 7/11 パソコン教室
 7/11 スタッフ歓送迎会
 7/12 自立生活プログラム
 7/12 県障害福祉課訪問
 7/14 事務局会議
 7/18 パソコン教室
 7/19 連絡調整会議
 7/20 自立生活プログラム
 7/21 安田火災助成金贈呈式
 7/22 千葉市自立生活センター
 7/24 支援事業研修会打ち合わせ
 7/25 パソコン教室
 7/26 自立生活プログラム
 7/27 山崎さん見舞い
 7/28 事務局会議
 7/29 運営委員会
 8月
 8/1 パソコン教室
 8/4 連絡調整会議
 8/8 パソコン教室
 8/11 事務局会議
 8/17 県庁訪問
 8/22 パソコン教室
 8/25 事務局会議
 8/28 県障害福祉課
 8/29 パソコン教室
 8/30 谷口夫人通夜
 8/31 京成電鉄に申し入れ

カンパのお礼

前号以降、以下の皆様より温かいカンパをいただきました。
 厚くお礼申し上げます。（順不同）

吉峯 啓晴様	高木 恒雄様	前田 満子様	田村 正子様
佐久間 良夫様	増田 高子様	中山 洋子様	瀬能 義辰様
石田 三郎様	大和久 貞夫様	山岸 春江様	佐藤 深雪様
今関 公雄様	佐藤 達郎様	平岡 はるみ様	山下 尚郎様
松井 せい様	古川 市郎様	高野 博之様	石栗 緋紗子様
板橋 富子様	田尾 宜子様	米本 桂様	吉田 春美様
石栗 利宏様	匿名		
船橋医師会	(株)シンプル		

編集後記

今年の夏も暑い、暑いと言いながら、ようやく朝晩涼しくなってきましたね。

当センターのスタッフは1週間の休暇を十分とりました。これから秋にかけての超多忙な毎日が控えているからです。

皆さんはどのようにこの夏を過ごされましたか。私は毎日、実家のワーフロに向かって残暑見舞いを作成したのですが、肝心の印刷がなかなかできず、孤軍奮闘しましたが、結局1枚もできませんでした。あ～残念。

もう暦の上では秋です。活動の秋です。おたがい体に気をつけながら頑張ってまいりましょう。

(Y・A)

同封の郵便振替用紙は会費、介助料、カンパなどを送金していただく際にご利用ください。

発行所 東京都世田谷区砧6-26-21
 障害者定期刊行物協会
 頒価 100円